

韓国 気候変動の危機に瀕する果樹農業

[FreshPlaza](#) 2025年9月30日

韓国の果樹部門は、気候変動によって天候パターンが変化し、作物が被害を受け、産地が移動する中で、ますます多くの課題に直面している。気温の上昇、猛暑の長期化、さらに突然の豪雨は、果実の裂果、糖度の低下、収量の減少とますます関連付けられるようになっている。

目に見える影響の1つがリンゴの裂果である。これは、極端な天候の下で急激に水分を吸収することで果実が膨張し、果皮が伸長の限界を超えて裂ける現象である。日光への曝露の長期化も、黄変や劣化を引き起こす。春の気温上昇によって開花が促進されると果樹は霜害に対して脆弱になる。一部の生産者は日焼けを防ぐために高価な遮光構造物を試験的に導入している。

韓国農村振興庁(農林畜産食品部傘下)は、化石燃料への依存が続けば、現在平均気温7.5～11.5℃の冷涼な気候に依存しているリンゴ産地は、2090年代には完全に消失する可能性があると予測している。最悪のシナリオでは、2070年代には既存農地のうちリンゴ栽培に適した土地はわずか1.1%にまで減少する見込みである。他の伝統的な作物についても同様の減少が予測されており、ナシの栽培適地は現在の89.8%から30.1%に、モモは82.2%から29.9%に、高麗人参は84.1%から9%にまで縮小する可能性がある。

高麗人参は特に長期の高温に脆弱である。日陰の条件で6年かけて育成されるが、持続的な高温は成長を遅らせ、品質を低下させるため、一部の収穫物は商業的価値が低下する。

一方で、亜熱帯性作物は勢いを増している。柑橘類のハルラボンに適した農地は0.6%から12.9%に、タンジェリンに適した土地は1.2%から34.6%に拡大すると予測されている。

味の傾向にも変化が見られる。韓国国立園芸特作科学院(園芸薬用作物研究所)の研究によると、夜間の気温が24℃を超える環境にさらされた生食用ブドウの巨峰は糖度が低く、成熟が阻害され、濃紫色ではなく淡い色に変化した。熱帯夜の増加は果実の品質を徐々に損なっている。

消費者市場もこれらの変化を反映している。リンゴのふじ品種は2023年には依然としてリンゴ出荷量の半数以上を占めていたものの、生産量は前年に比べて約3割減少した。一方で、果皮が黄色い新品種のシナノゴールドは急速に増加し、出荷量は2018年の0.5トンから2023年には約3千トンにまで増加した。

専門家は、適応は容易ではないと警告している。土壌条件、生産サイクル、投資の必要性等が作物の転換を困難にしている。輸入の増加を提案する声もあるが、供給の安定には寄与する可能性がある一方で、国内の果樹農業の長期的な持続性に懸念が生じている。(温室効果ガスの)低排出シナリオでは、2070年代においても16.2%の農地がまだリンゴに適するとされており、排出量の削減によって韓国の伝統的果樹産地の一部を維持できる可能性が示されている。

出典: Korea Times